

教職大学院 NEWS



三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第7号 H30.2月発行

教職大学院 第3回中間報告会 ポスターセッションを終えて……

2月8日に、教職大学院の第3回中間報告会を行いました。今回は、本年度の教職大学院での学びの成果と課題、2年目の長期実習（現任校実習又は連携協力校実習）への構想について、ポスターセッション形式で発表を行いました。会場の壁面に全員のポスターを掲示し、①小学校・高等学校グループ、②中学校グループ、③ストレートマスターの順に各40分の時間を使って発表・質疑応答を行いました。当日は、教育学部の学生も何人か参加いただき、各ポスターの前では、熱心な応答が見られ、とても充実した報告会となりました。また、ポスターセッションの後には、2つのグループに分かれ、教員も入ってリフレクションを行いました。そこでは、ポスターセッションでもらった意見やそれらを受けての今後の方針等について発表し、意見交流を行いました。本報告会に向けては、後期の授業「地域の教育課題解決演習Ⅱ」において、毎週、小・中・高・ストレートマスター別のグループ（教員も各グループに参加）で、自身の学修テーマが「三重県教育ビジョンで示された教育課題」や「現任校の現状・課題」とどのように結びついているのか、それらを受けて、来年度の長期実習でどのように探求していくのかについて、各グループでの進捗状況等の報告・質疑・意見交換を行いました。また、途中で異なるグループでの討議を交え、自身の学修テーマの再構築と、来年度の長期実習の具体的な計画を練りあげていきました。本授業では、途中に、「アンケート調査・質問紙の作成（担当：瀬戸）」「インタビューの方法論（担当：森脇）」「ポスター作成（担当：須曾野）」の講義を挟み、学修テーマ（学校や地域の教育課題）について、大学教員や同期入学生たちとともに、多角的に広い視野から検討し、解決の道を探求することができました。今後は、来年度の「長期実習」と授業「地域の教育課題解決演習」等を通じて、さらに探求を深めていきます。



【院生のポスターセッション発表テーマ一覧】

名前	発表テーマ
世古 浩一	ベテランー中堅ー若手がつながる ～タブレットPCを活用した「伝え合い学び合う」授業づくり～
牧野 江津子	「深い学び」につなげる具体的条件の解明と授業改善の推進
角谷 道生	高等学校におけるエピソード記述と関与観察を用いた教師の省察 ～教科「福祉」を中心に～
福永 名津	学校現場における教育相談の充実について
古川 真由美	高卒就職者・事業所調査から設計する高等学校のキャリア教育
峯下 隆志	高等学校において生徒に深い学びを実現する教員の専門性～教員の実践における「省察的実践者」としての認識論及び「教育工学」から見た授業スタイルに着目して～

小宮 康子	学び合う学校で在り続けるには ～校内研修システムの再構築～
杉野 拓也	体力向上に資する授業の改善 ～協同学習とタブレット活用～
野呂 貢一	実践より学ぶ「学びの在り方」の探求
水谷 佳満	小学校と中学校の連携を意識したプログラミング教育
浦口 真凜	地域の素材を生かした教材の有効性 ー小学校での実習・実践を通してー
二宮 眞帆	中学校における音声指導の充実 ー発音記号の有用性に着目してー
西田 郁美	中学校理科における授業づくり ～科学的思考力の育成を目指して～
吉村 友希	“つながり”に視点を置いた英語の教育課程編成と学習指導
吉川 和希	小学校における外国語教育の在り方について ～「読む」「書く」をどう教えるか～

大好評！ 教職大学院主催ワークショップ

1月21日（日）に、村上公也氏をお招きして、本学教職大学院主催のワークショップ「プリント学習にさよなら！～すぐに使える教材・教具と授業づくり～」を開催しました。その模様を、本ワークショップの、もう一人の講師、本教職大学院の森脇教授に語ってもらいました。

チラシの宣伝には次のようなことが書かれていました。「イーチ、ニー、サーン・・・」と数えさせることは、本当に「数」の理解につながるのか？「個に応じた指導」であるはずの「プリント学習」は、子どもたちの生きる力につながるのか？教育の本質とは何か、「成果」とは何なのか、目の前の子どもの「今」に向き合う授業とは？この1日で、目からウロコがポロポロ落ちる！この機会をお見逃しなく。「目からウロコ」と多くの参加者（参加者数は全体で50名）が感想で書いているように、上のフレーズに違わぬ村上ワールドを堪能した一日でした。森脇の個人的な感想を、村上氏に送った私信から引用してみます。「この講演企画、私にとっては久しぶりの快感に近い学びをさせていただきました。ありがとうございました。以下、4点にまとめてみました。1点目は、学習者へのリスペクトです。村上実践に通底する根本原理のような気がします。学習者のプライドを守り、刺激するしかけがそこそこに散らばめられていて、子どもたちはすべてにわたって心地よく自分の居場所を確保しています。2点目はアクチュアリティにかかわることです。私は単純にアクチュアリティとは、リアリティ+（学習者にとっての）内的必然性と解釈していますが、すべての活動にそれが感じられることです。徹底的に学習者に寄り添って学びを考えると、このような境地になると思います。学習の意味とか意義にかかわる本質的な問題だと思えます。3点目は、演技、ドラマ（物語）の重要性です。そこに大きな時間とエネルギーをかけています。おそらく金銭も。「ほめることが大事だというならば、ほめる方法を徹底的に考えよ」というメッセージは、多くの教師にとって耳の痛い言葉だと思えます。4点目は、最大の印象的な言葉なのですが「特別支援のもっとも重要な支援は支援をはずすこと」。これは、うすうすはそう思っていたことなのですが、これほど明確に聞いたのは、しかも当事者から聞いたのは初めてで、すっきりして気持ちがよかったです。可視化は大事だけど可視化でとどまってしまうとイメージ化を阻害してしまう、ことなどをUDはあまり考えていないように思います。いずれにせよ、特別支援教育の話でありながら、教育の原点を示すものであって、私の研究対象である小学校から大学までの授業研究に、「骨」を与えていただいたような感じがしています。」



教職大学院企画の第一弾としては、参加者の感想を見る限り、きわめて好評だったといえると思います。参加者からは「村上さん、また来て」という声もあり、また「現場実践に役に立つお話やワークショップを」という声もあったので、こうした声に応えられるような第二弾を考えていきたいと思っています。

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻（教職大学院）広報担当

☎ 059-231-9319（学務担当）

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp>（教職大学院専用 HP）

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp